

焼津市 市立石津保育園 園長 前澤和美先生

今回の訪問先は焼津市の公立保育園「石津保育園」さんです。園児数は男の子四二名、女の子四三名の計八五名。職員は二九名（調理師、看護師、業務員、早番・遅番専属保育士含む）です。保育園は住宅街にあります。近隣には小学校や地域交流センター、目の前には大きな公園（中央公園）があります。春から夏にかけては梅や桜、紫陽花の花を鑑賞したり、秋以降はどんぐり等の木の实拾いや、紅葉を楽しむこともでき、園庭だけでなく、公園も子どもたちを育ててくれる素晴らしい環境であると言えます。

特色としては、乳児クラスは担当制、幼児クラスは異年齢保育を行っています。一人一人を大切にし、寄り添う事でどの子どもも自分の思いを表現しやすい環境を心掛けているそうです。そして乳児での育ちを土台とし、幼児になってからは、クラスが家族のように年齢の違う子ども達が集まりお互いの気持ちを考えて、受け入れられるよう保育をすすめているそうです。



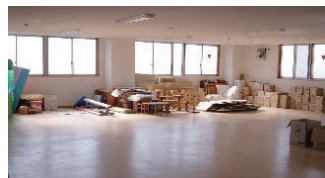
担当制保育も異年齢保育も、心を育てる保育が出来ているのではないかと思っていますという事でした。異年齢保育を始めた理由としては、核家族化が進む中で人との関わりが希薄になってきている世の中を子ども達の姿からも感じられる事が増えた為、当時の園長先生と副園長先生が「心を育てられる保育」をしていきたいという願いのもと行っていく事になっていったそうです。園庭を見渡してみると、子ども達と職員が年齢を問わず優しげな姿で遊んでいる姿は微笑ましく温かな気持ちになりました。



玄関横にはガラス張りの給食室があり、子ども達はもちろんの事、園を訪問される方にも献立や調理の様子を見る事ができ安心安全な食事の提供がなされています。



又、石津保育園さんの環境は、防災にも力を入れていました。中でも園舎三階には、広い備蓄室があり、非常用具の中には、園児の家庭から持参した防災バックや靴も用意され、地域の方にも避難待機所として解放する事になっているそうです。電源の確保にも困らないよう、停電時用のコンセントもあり万全な備えになっている事に驚きました。



焼津市は津波到達時間が短く、施設は沿岸部にある為、屋上には津波から高所に避難できるような広い避難スペースがあり地域の実情と保育のニーズを合わせた、きめ細やかな防災対策をされていました。屋上に出てみると、そこにも広い待機場所があり津波だけでなく浸水被害からも子ども達の安全を確保できるようになっていました。屋上からは公園で子ども達が保育士と落ち葉拾いをしている姿が見え、私達に向かって「いっぱいいたらよ〜」と手を振って満足気な顔を見せてくれました。今回、お忙しい中、取材に協力して頂き、子ども達への思いが様々な場面や場所から何う事ができました。石津保育園の皆様にお礼を申し上げます。ありがとうございました。



ありがとうございました。